

平櫛孝 ひらね たかひ 陸軍軍人（中佐）。明治四十一年廣島縣生れ、昭和五十五年没（一九〇八—八〇）。陸軍料學學校教官を経て、昭和十六年大本營報道部員。少尉時代、陸軍省新聞班発行の旬刊誌『つむぎの』の懸賞小説「太陽を射る者」を以て応募、一等當選の経験を有^とり。十七年總合雑誌『改造』八月號の巻頭論文、細川嘉六「世界史の動向と日本」を問題として、筆者の檢舉拘留、大森直道編輯長と擔當編輯者の引責退社を呼んだ發禁事件の火附役と成つた。十九年サイパン島守備部隊（第四十二師團）參謀として従軍。七月七日最後の總攻撃の重傷を負ひ、アメリカ軍の手術室で蘇生、在サイパン日本軍參謀中、唯一の生還者。

回想録『大本營報道部』（昭和五十五年十月—二十五年）図書出版社）がある。



大本營報道部

元大本營報道部員・陸軍中佐 平櫛 孝



ウソツキノと罵られた大本營発表の舞台裏

大本營報道部は日本の陸海軍が国民に対して開いた唯一の窓口であった。日本開戦から敗戦まで、勝った、勝ったと威勢のよい「大本營発表」をくり返して戦局の真相を隠蔽し、遂には国民の信頼を失墜するに至る虚々実々の内幕を太平洋戦争の流れに沿って再現する黄色回想録

図書出版社 定価1200円 0095-809002-5306

大本營報道部

元大本營報道部員
陸軍中佐

大本營発表の虚々実々

図書出版社